

シカ・カモシカの下顎骨および歯の計測

群馬県立太田女子高等学校 野生動物研究班

佐藤 彩子・畑山 美月・川村 緋夏・佐藤 愛美・岩崎 聖未・椎名 真希
高 橋 理恵子・中島 望実・松森 千裕

1 はじめに

研究をはじめたきっかけは、昨年度のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトにて、群馬県自然史博物館に収蔵されているニホンツキノワグマの標本の頭骨、上顎、下顎、歯の大きさを測定し、さまざまな分析・考察を行ったことである。今年は対象をニホンジカとニホンカモシカに変更し、下顎骨と下顎の歯の大きさの測定、分析を行った。

2 研究方法

群馬県とその付近の各地域で捕獲されたニホンジカ 237 個体とニホンカモシカ 176 個体の標本の下顎について、下顎骨で 6 箇所、歯で 7 箇所の測定項目を設定し、ノギスを用いて長さを測定した。(図-1,2)

また、下顎の臼歯 M2 と M3 について摩耗の深さの測定を行い、M2 について先端部のすり減りの状況をすり減りの少ないものから順に sharp、round、blunt の 3 段階に分けて記録した。(図-3,4) さらに、臼歯の萌出状況、異常歯の有無と歯槽の吸収の有無も観察し記録した。

3 結果

測定された項目のうち、主に臼歯の萌出や摩耗状況に注目して、シカ・カモシカの雌雄の差や、標本となった個体の胃に残された内容物との関連を分析した。

4 謝辞

本研究を進めるにあたり、群馬県自然史博物館の姉崎智子学芸員にはニホンジカとニホンカモシカの生態についての指導、資料提供をしていただきました。ここに、感謝の意を表します。

5 図表・画像

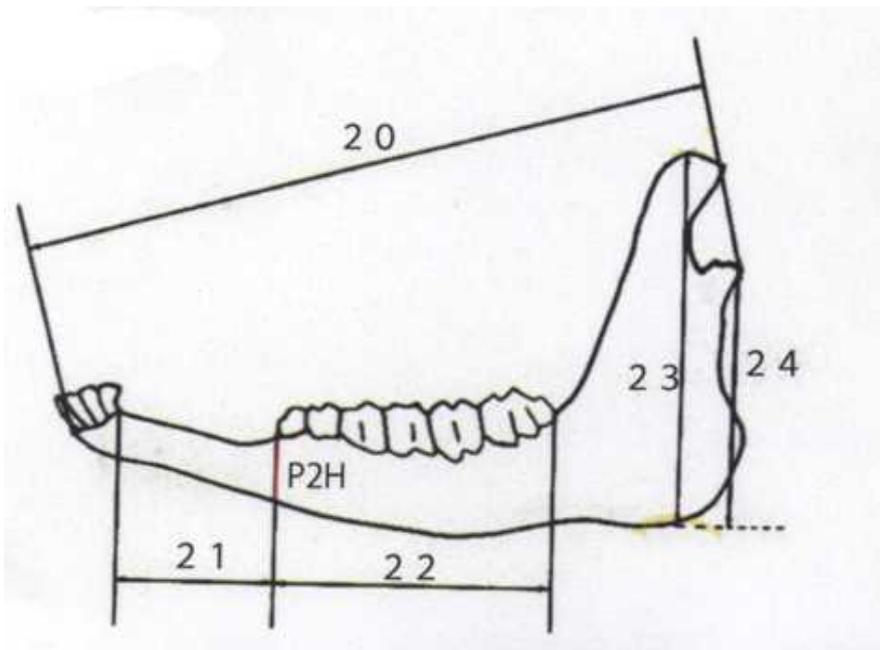


図 1—下顎の測定項目

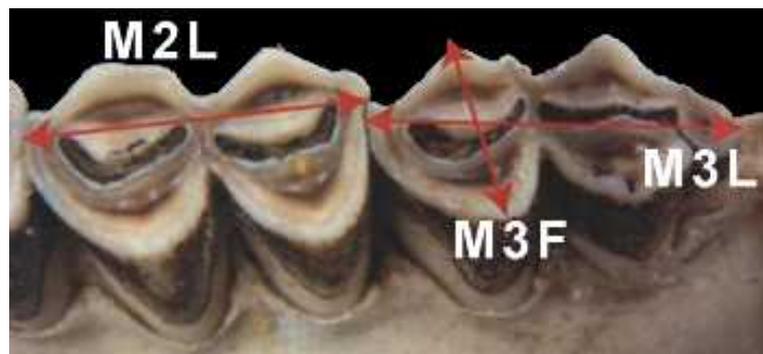


図 2—下顎の歯の測定項目



図 3—M2 の摩耗の深さ



図 4—M2 のすり減りの状況
(左から sharp,round,blunt)